吉備国際大学研究紀要
（人文・社会科学系）
第26号，121－133，2016

海外留学に臨む大学生の実態と課題について

―学生を対象とした調査を基に―

黒宮　亜希子・橋本　由紀子・金沢　真弓

The Issues and Realities of University Students Studying Abroad
: Based on a Survey aimed at Students

Akiko KUROMIYA, Yukiko HASHIMOTO, Mayumi KANAZAWA

Abstract

This paper aims to discuss the below two points using the survey conducted in "Prior Study Abroad Guidance" which was aimed at students looking to study abroad. Firstly, the paper will study the experiences of students who have traveled abroad. Secondly, the paper will shed light on the process of change in the quality and amount of expectation and anxiety felt by study abroad students. The method of survey was a paper-based questionnaire. The survey was conducted twice in April and July, 2015. The survey asked for the second-year students (n=26) at Kibi International University, Japan. After having analyzed the questionnaire's results, the change in the amount of anxiety and expectation of study abroad students was not determined. However, due to a free descriptor, when we grouped the students' responses using the KJ method, it was found that anxieties related to studying abroad had changed from vague, general anxieties, to more specific ones. Moreover, regarding expectations toward study abroad, it was found that a large number of students have strong expectations of their personal growth as well as the improvement of their language ability.

Key words：University Student, Study Abroad, Prior Guidance, Anxiety, Expectation
キーワード：大学生，海外留学，事前指導，不安，期待

吉備国際大学外国語学部
〒700-0931　岡山県岡山市北区奥田西町５－５
Kibi International University
5-5, Okuda Nishimachi, Okayama city, Okayama Prefecture, Japan (700-0931)

１．研究の背景

近年，日本の英語教育開始の低年齢化は進行している。実際に，公立小学校の総合的な学習の時間において約８割の学校が英語活動を実施，特別活動等も含め何らかの形で英語活動を実施している学校は90パーセント以上に達している（文部科学省 2015 a)。幼少期からの英語教育推進が加速する現象と逆行するように，近年「若者の留学離れ」が進んでいる。文部科学省（2015ｂ）は，留学を敬遠する若者の増加は，国際感覚や研究能力を磨き，人的ネットワークを形成する，国際的に通用する人材の育成の機会を狭めるものであり，グローバル化が進む中で，日本社会が取り残されることになりかねないと警鐘を鳴らす。

「若者の留学離れ」の要因には様々な見解があるが，その一つが，「日本を出たくない」，「日本の生活が一番快適で良い」といった，「若者の内向き志向」と考えられている。太田（2014）は，日本と世界の若者の留学に関する様々なデータを引用しながら，日本の若者の間で，「海外志向の強い層」と「海外志向の弱い層」，二極化が進んでいると結論づけた。さらに，グローバル人材育成に関する問題解決のためには，海外留学のメリットを若者が感じることが出来るように，政府，実業界，教育界，一丸となって取り組むことの必要性を強調している。

日本の若者の留学を後押しするため，日本政府は官民協働で2014年から高校生・大学生を対象とした海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN」を準備し留学を推し進めている。この留学支援制度は，東京オリンピック・パラリンピック開催予定の2020年までに大学生の海外留学を12万人（現状６万人），高校生の海外留学を６万人（現状３万人）に倍増させる目標を掲げるものである（文部科学省 2015 c)。

以上の背景により，海外留学を志す学生に対してどういう教育を行うかが大学教育の間でも問われている現状がある。大学生にとっての海外留学の経験は，学生一人一人の「将来」，いわば卒業後の就職やキャリア形成にも強く影響するものである。留学に関する指導・教育は，いわば，日本の大学が送り出す「留学の量」を増やした後の，どんな留学ビジョンを持った学生を海外に送り出すのか，いわば「留学の質」の担保に関わる課題といえよう。

留学教育に関する研究蓄積としては，留学中に学生が抱えるストレスや健康管理についての事前指導の必要性を説いた研究（小栗・本間 2003）や，留学経験者を対象にキャリア意識の影響を明らかにした調査（杉野ほか 2014）等が存在する。しかしながら，学生個人の留学への動機付け，個別の事前指導（留学計画策定等まで）の成果をまとめた教育研究は依然希少といえる。

２．目的と意義

本研究の目的は，大学における「留学の事前指導」に関する授業（科目名：「キャリア開発Ⅱ」）を通じて，以下２つのことを明らかにすることである。第１の目的は，海外留学に臨む大学生の「海外渡航経験」を明らかにすることである。第２に，留学に対する大学生の「不安感」や「期待感」が留学の事前指導を通じ，どのように変化するか実証的に明らかにする。以上の研究成果は，海外留学を志す学生に対する大学教育，特に事前準備学習を検討するための貴重な資料となりうると考える。

３．方法

(1)　調査概要

質問紙法による調査を実施した。調査日は，2015年４月（事前調査）および７月（事後調査）の計２回である。調査対象者は，吉備国際大学外国語学部外国学科２年生26名，キャリア開発Ⅱの授業を受講

している学生を対象に授業内で質問紙の配布・回収を行った（配布方法：集合調査法）。

(2)　調査項目

属性に関する基本項目のほか，留学に対する不安と期待，さらには留学経験と将来のキャリア形成との接続意識を測定する尺度，他に，留学の不安と期待に関する自由記述形式の設問を準備した。用いた尺度については，森・児玉（2012）及び，北海道大学工学部工学教育プログラム・グローバル化推進委員会（2009）を参考に項目の精査を行い使用した。表１，表２はそれぞれ，留学に対する不安および期待について測定するための「留学不安」尺度と「留学期待」尺度の項目一覧である。

表１　留学に対する「不安」尺度の項目一覧

		全く不安でない	あまり不安でない	不安である	非常に不安である
①	語学能力に関して	4	3	2	1
②	費用に関して	4	3	2	1
③	現地での生活に関して	4	3	2	1
④	留学先の教育レベルと自己の習熟レベルのギャップに関して	4	3	2	1
⑤	留学先での人間関係に関して	4	3	2	1
⑥	帰国後の学習、単位取得に関して	4	3	2	1
⑦	手続きの煩雑さに関して	4	3	2	1
⑧	留学先の生活情報に関して	4	3	2	1

表２　留学に対する「期待」尺度の項目一覧

		非常に期待している	期待している	期待していない	全く期待していない
①	語学力が向上する	4	3	2	1
②	コミュニケーション能力が向上する	4	3	2	1
③	視野が広がる	4	3	2	1
④	専門的な知識が身につく	4	3	2	1
⑤	将来の選択肢が広がる	4	3	2	1
⑥	現地の文化を体感できる	4	3	2	1
⑦	新しい友人、人間関係ができる	4	3	2	1
⑧	適応・対処能力が高まる	4	3	2	1
⑨	忍耐力がつく	4	3	2	1
⑩	自分自身を見直すことができる	4	3	2	1

「留学不安」尺度は８項目（語学能力，費用，現地での生活ほか），「留学期待」尺度（語学力向上，コミュニケーション力向上，視野が広がるほか）は10項目から構成されている。「留学不安」については，「全く不安でない」～「非常に不安である」の４件法で，「留学期待」についても，それぞれの項目に対して，「非常に期待している」～「全く期待していない」の４件法で回答を求めた。本稿では，以上２尺度を用いた調査結果を扱うこととし，他の尺度や項目の分析については別の機会を設けるとする。

(3)　倫理的配慮

質問紙の表紙に，質問紙への記入は匿名であり個人の特定はなされないことについて記載し，さらに口頭でも説明を行った。調査結果は今後の科目の運営に活用できるものとするという調査の主旨に対し合意を得た学生に対して配布・回収を行った。

４．大学の授業における海外留学の事前指導及び留学を活用したキャリア教育

吉備国際大学外国語学部外国学科の２年時生を対象に開講する「キャリア開発Ⅱ」の授業は，全16回の授業を通じ，海外留学に必要となる基礎知識・情報を十分に得る機会とすること，さらには，個々の留学先にあわせて「留学計画」を立てるまでを目的としている。留学の準備と同時に，留学後の未来，いわば大学卒業後の就職やキャリアにどう留学の経験を活かしたいのか，主体的な動機付けを意識した留学事前学習を実施することも目的としている。

事前学習の授業内で学生が求められる課題は大きく３つである。①毎回の授業記録と振り返りをポートフォリオとして記録・提出する，②個別の留学計画のプレゼンテーション，③留学計画書の提出，以上大きく３つである。全16回の授業内容の詳細については表３に示す。

表３　授業計画及び実施内容

1. オリエンテーション
2. 留学受け入れ機関、大学、団体などの説明、留学に向けての心構え
3. 教員の留学体験談　と質疑応答　1
4. 教員の留学体験談　と質疑応答　2
5. 教員の留学体験談　と質疑応答　3
6. 教員の留学体験談　と質疑応答　4
7. 先輩の留学体験談とワークショップ
8. 留学計画書（交換留学生の発表）作成　実習ノートについて
9. 学生による発表　1　スタディー・アブロード実習計画発表1
10. 学生による発表　2　スタディー・アブロード実習計画発表2
11. 学生による発表　3　スタディー・アブロード実習計画発表3
12. 学生による発表　4　スタディー・アブロード実習計画発表4
13. 学生による発表　5　スタディー・アブロード実習計画発表5
14. リスクマネジメントシミュレーション、異文化理解ワークショップ
15. 旅行会社による渡航、荷物、最終確認とアドバイス
16. 質疑応答、最終レポート　個別指導　「留学計画書（清書版）」の提出

授業内では，教職員が海外留学や海外での就労経験をもとにアドバイスを行い（Q&A含む），外部講師によるリスクマネージメントに関する講義なども実施した。授業の中盤には，各学生の留学計画のプレゼンテーションを行うことで，留学に臨む学生間の留学目的の共有機会を設け，「ピア（仲間）」の機能を高めることも試みた。毎回の授業で記録を書き，ポートフォリオとして提出，その後担当教員が毎回添削を返却することで，「学生自身が授業で何を得たか」，「何を授業から学んだかを」適宜を把握できる科目運営方式を採用した。最終授業で提出を求める「留学計画書」を作成することで，留学後も現地で学生が主体的な学びを継続，維持できると考えた。

５．結果・考察①学生の海外渡航経験について

授業開始時と，全16回の授業終了時，２回にわたって質問紙を配布・回収した結果，分析対象となるサンプルは26票であった（事後調査は24名）。回答者の性別は女性16名，男性10名である。２回の調査で回答者数が異なるのは，２回目の質問紙配布時には授業に欠席した学生がおり，回答者数が２名減少したためである。

(1)　海外渡航経験

学生の過去の海外渡航経験について尋ねたところ，図１のように，「渡航経験なし」が８名で最も多かった。次いで「１回」が７名であった。しかし，渡航回数が５回～７回と回答した者も５名おり，「留学を希望する大学生」と一言で申しても，学生達は幅広い渡航経験を持ちあわせていることが本調査結果より明らかになった。

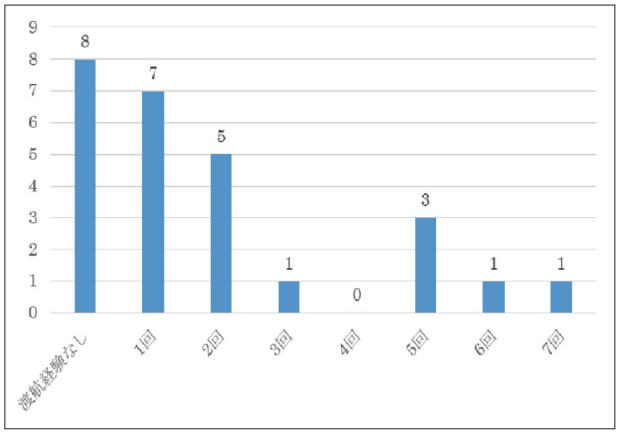

図１　海外渡航回数

次に，渡航経験があると回答した者のうち，渡航先について詳しく尋ねた。なお，図２の縦軸は人数ではなく，回数である（同一国へ複数回渡航した回答者が複数名存在するため）。アメリカ（グアム含む）が最も多く回答は11であった。次に多かったのが，東南アジア諸国（タイ，シンガポール，マレーシアなど）であった。学生らも多様な渡航先の経験を有しており，これらの経験が，大学在学中に留学を希望する渡航先にも多少ならずとも影響を与えると考察する。

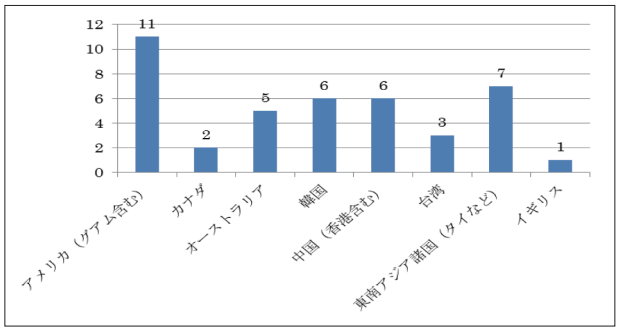

図２　学生の海外渡航先

(2)　過去の海外渡航先の期間および目的

次に，海外渡航経験者のうち，どの程度の期間，どういった目的で渡航したのかを尋ねたところ，期間としては７日（１週間）が最も多く（N=10），次に，３日（N=５）であった。２週間以上の滞在経験も，７回答あった。なお，家族とともに年単位で生活していた海外渡航日数についてはこの図から除外している（図３）。

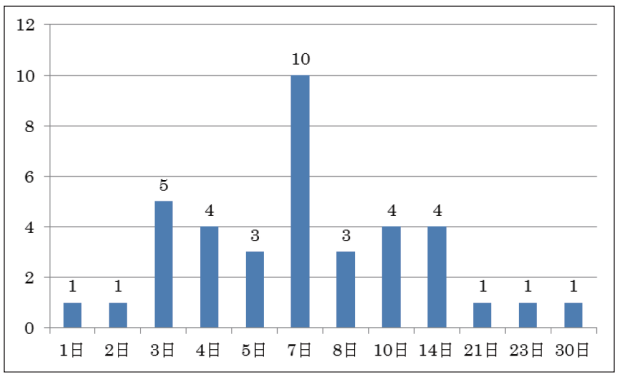

図３　海外渡航日数

図４のように，渡航の目的としては「高校の修学旅行」が最多の14回答であった。その他，語学研修やホームステイで海外を訪れた経験がある学生も10の回答があった。

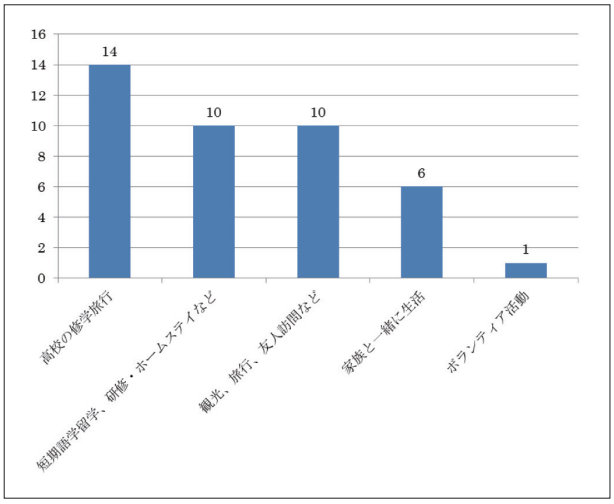

図４　海外渡航目的

以上の結果より，修学旅行ならびに高校が実施する語学研修プログラムで渡航経験を有する学生が多く，これらの経験が留学に興味を持つきっかけになっていることが推測される。しかし，いずれも長期ではなく，団体行動による海外研修が主たる学生達の海外渡航経験といえる。

以上の結果より，今回の調査の分析対象である大学生（N=26）は，①海外渡航経験が全くない層，②高校の修学旅行で渡航経験がある層，③家族と頻繁に海外経験がある層，大きく３つの層があることが明らかになった。近年，日本の大学が学生を対象に準備している留学プログラムは，短期の語学研修，正規の交換留学，インターンシップなど多様化しているが，学生の大学入学前の渡航経験の有無や経験の質量は，学生達が大学在学中に望む留学のプログラムを今後も大きく左右する要因となりうると考察する。

６．結果・考察②留学に対する「不安」と「期待」～量的調査の結果より～

留学に臨む学生が抱える「不安」反対に「期待」について授業開始時と，終了時で，量的な変化が見られるかを探った。なお，受講生全員を調査対象とする統制群を用いない実験計画である。

回収された質問紙の数値をデータ化し，統計処理ソフトIBM SPSS Statistics 22.0により分析を行った。「留学不安」と「留学期待」，２つの尺度の内的整合性を信頼性分析により確認したところ，Cronbach's α（クロンバックα）の係数は，「留学不安」尺度で0.799（事前調査），0.855（事後調査），「留学期待」で0.728（事前調査），0.800（事後調査）であった。一般的に社会科学分野では0.75程度以上の係数が求められるため，今回の調査では項目数が多い尺度かつサンプル数が少ない調査実施にも関わらず，信頼性については比較的良好な結果が得られたといえる。

次に，「留学不安」，「留学期待」２つの尺度の素点の総和を求め，平均値の比較を試みた。図５のように，「留学不安」は16回の授業後にやや軽減され（得

点が高い=不安が低い，の意味)，「留学期待」も微増した。しかしながら，事前と事後調査の平均値の差をt検定により分析した結果，いずれも統計的に意味のある差は確認されなかった。なお，学生の海外渡航経験の有無を２群（渡航経験有り，渡航経験なし）に分けての比較も併せて試みたが，「留学不安」，「留学期待」いずれも群間の平均値に意味がある差は見られなかった。

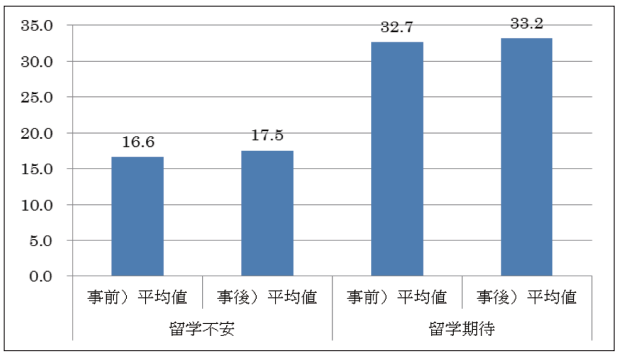

図５　留学不安，留学期待
事前調査と事後調査における平均値の比較

結果的に16回の授業の前後では「留学不安」，「留学期待」に量的には変化が認めらなかった。今後，尺度を繰り返し使用しながら信頼性を高めることが次年度以降の課題と言える。次項では，自由記述の文字データの分類によって，量的には明らかにすることが出来なかった「留学不安」と「留学期待」，その詳細について分析を行うこととする。

７．結果・考察③自由記述にみる，留学に対する「不安」と「期待」の変容～質的探索～

事前調査と事後調査，２回の調査では量的な変化が確認できなかった「留学への不安」および「留学への期待」について，自由記述方式により学生に回答を求めた。

「留学不安」については，「現在，あなたが，留学について不安に感じていること自由に記述をしてください」と尋ね，また，「留学期待」については，「現在，あなたが留学について期待，楽しみにしていることについて，自由に記述をしてください」と回答を求めた。これにより，尺度で量的には確認しきれなかった不安や期待の詳細について抽出することができると考えた。

回答が得られた文字データはすべて電子化し，その後，授業担当者らによってKJ法によるグループ化作業を行った。なお，一名の回答者の文章が複数の内容によって構成される場合は，意味ごとに区切って作業を進めた。

文章による質的なデータを収集することで，「留学の不安」については海外留学に臨む学生の事前指導に当たる上での「ニーズ」をより正確に把握出来ると想定した。また「留学期待」については，他の留学準備に関する科目，たとえば語学学習への「動機付け」としても活用が可能であろう。さらに今後，量的調査を再度繰り返し実施する際に「留学不安」や「留学期待」がどのような下位概念により構成されているのかを知り得る貴重な素材となるとも考えた。

(1)　留学に対する不安要因の質的探索

「現在，あなたが，留学について不安に感じていることを自由に記述してください」という問いに対して回答者が自由記述を行い，得られた文字データをKJ法によりグループ化を行った（図６参照）。なお，事前調査と事後調査，２回の調査とも同じ質問形式で尋ねたため，時系列による「不安の質」その変化が理解可能なよう色別に整理を行った。

グルーピングの結果，21の小グループが見出された。さらに，親和性のある小グループを中グループとして新たなラベルを付け，最終的に，９つの中グループにまとめられた。中グループごとに主な結果を記述する。

留学に対する不安の中でも最も漠然としたもの

①人生で初めて海外に行くことにより一人になる不安

初めての海外	
私は海外にまだ行ったことがないので、留学したときに現地の生活にすぐに慣れるかどうか不安があります	初めての海外ということ
今まで海外に行ったことがないということが一番の不安です	何事にも初めてであるので何もかもが恐ろしい

不安しかない

一人になる、一人で行動すること	
一人ぼっちは本当にきつい	一人行動がうまくできるか

現地までの交通	
飛行機の乗り換えなどが上手に出来るのか	飛行機の乗り方や手続きができるか不安

②留学費用に関する不安

留学費用	
留学費用がどのぐらい必要であるか	一番は留学費用です。お金ないので、この中で一番
費用を両親に出してもらえないのでなるべく長期間行きたいが厳しい	お金のやりくり
生活費について少し不安があります	費用
留学資金	お金（費用）

⑥治安・情勢への不安

治安や現地の情勢	
治安が良いかどうか	情勢がどうか
治安は良いかどうか	この世界情勢の中、無事に帰ってこれるか
犯罪、事件に巻き込まれないか不安	治安についても気になる
性的な問題（暴行とか）の対処	トラブルに遭わないか
治安も不安ですし、健康面や落とし物をした場合についても不安があります	治安
治安の悪さ	

⑨留学先選択と留学後の将来に関する不安

留学と将来の進路	
留学先が将来の仕事に本当に活きるか心配です	まだ自分の道が決まっていないことに一番不安を感じています

希望する留学先に行けるかどうか	
希望している地域に行けなかったり、もっと長期間行きたいのに限られた期間しか行けなかったらどうしようなど	○○に6週間行ったところで何が変わるのか・・自分が本当に行きたい国ではないのに良いのか・・・

③自らの語学力・コミュニケーション力で人間関係を築けるかという不安

語学・コミュニケーション力	
積極的にコミュニケーションがとれるか	英語でコミュニケーションをとって生活することが出来るのか
相手とのコミュニケーションでの問題が多くなりそうで怖い、自分はあまり喋ることが苦手なのだから	今の自分の英語が海外の人々に伝わるか、理解してもらえるか、不安に感じます
自分の伝えたいことを誤解なく伝えられるか	英語と中国語の両立を自分は一番心配しています
現地住民と適切なコミュニケーションがとれるか	言語の違い
語学力に関しては不安を感じるので、留学に行くまでの4ヶ月間は集中してやらなければならないと感じている	コミュニケーションがとれるのか
現地の人と会話しているときに、自分の思いや考えを相手に伝えれるかどうか、伝わるかどうか	現地の人と適切なコミュニケーションがとれるかどうか
語学力。語学力に関しては訓練のみなのは解っているのですが	コミュニケーションが上手くはかれるかどうか

現地での友人・人間関係	
多くの人々と関わりを持てるかというのも不安です	現地に行って、人間関係がうまくいくか不安です
友達ができるか	日本人同士でまとまってしまいそう

⑤現地の生活・文化に適応できるかの不安

現地社会・文化になじめるか	
カルチャーショック	宗教について、又はその他に海外で聞くことはタブーとされていることとどう向き合うか
法律、文化、治安などに不安を感じています	現地の人の人柄は良いかどうか

生活面への適応	
現地の生活に対応できるか	行って最初は多分とまどうことがあるだろうけど、混乱せずに冷静な判断ができるかどうか
正直、現地に適応できるかどうかという問題には全く不安はありません、ただ、あまりにも環境が想像できないため、少し不安ではあります	ホームシック
現地の生活に慣れるまで	生活にすぐなじめるか
上手く生活できるかどうか	

⑧渡航手続きと現地での生活準備に関する不安

現地の生活環境と準備品	
インターネットが使用できるか	煙草の代わりを見つけられるか。煙草に関してはとても止められないと不安です
荷物の量	

貴重品の管理	
現地でのピンチの時（パスポート、金銭の紛失）の対応	留学先での貴重品管理
落とし物など気をつけること	金銭管理

留学全般の手続き・準備に関する情報	
手続きがうまく進んでいない	お金の面など唐突に言われても困る（飛行機、残高証明、他証明書）
手続き	手続き
留学に向け準備している段階での情報があまりなく、割と時間がかかる	

④日本及び現地での学習・履修の不安

帰国後の大学での単位取得や教職免許の取得	
卒業までの単位が上手くとれるか	教員免許が取れるのか
必履修の教科が留学中受けられないので、帰ってきてからの履修が不安です	今、現在はないけれど、帰国後の単位取得について理解していない面がある気がして、少し不安です
今まで頑張って続けてきた教職を辞めるとしたらとても後悔すると思うし、かと言って留学（色々な国に行きたいし、長期間）が自分の一番したいことだし	教員免許も取得したいが、最終的にどちらかを選択しろと言われた場合、自分はどうすべきか
帰国後の単位取得に関して	教職は続けられるか

現地での授業・学習・単位取得	
留学先での学習に関して	留学先の大学へ行っても、専門科目しかなければ行っても内容が全くわからないし、困ると思う
現地で受ける授業の内容が専門的に習ったことのある科目ではないので、ついていけるか心配	授業についていけるかどうか
単位を取れるかどうか	私にとって一番は大学の講義の難度が心配です
授業についていけるか	履修はどうすればいいのか（現地）
単位が取れるか	

留学中の現地での学び方	
授業（学校）が終わった時間をどのように有効的に使うかを考えています	留学した時に遊びほうけるのではなく、ちゃんとやるべきことができてるか、周りに流されてしまわないか
自分にとって留学で語学研修＋何をするか、するべきか、したいか考えるのに必死です	インターンシップなら、どんなことを主にやっていくのかが気になります

⑦自分で食事と健康を管理できるかの不安

食事について	
現地での食が自分に合わなくて、体調を崩してしまわないかどうか気になります	寮生活か一人暮らしすることになるかからないけど、自炊できるか不安
現地での生活が不安、ごはんをどうすればいいのか、とか	語学や費用について不安ですが現地で生活するための食事について非常に不安です
食べ物が自分の口に合うかも不安です	食べ物と飲み物
食べ物が不安です。日常生活で健康的な食習慣が送れるか不安です。そうでなくても、日本で生活している今でさえ好き嫌いが多いので、なるべく好き嫌いや食わず嫌いを直していきたいと思っています	

健康・体調管理	
体調を崩さないか	現地で健康に生活していけるかどうかが心配です
行く前に予防接種など受けるか知りたい、特にインド方面ではどうなのか	体調面
犬（狂犬病）	

事前調査	事後調査

図６　留学に関する不安の意見まとめ

が，「**①人生で初めて海外に行くことにより一人になる不安**」である。この中グループは「不安しかない」，「初めての海外」や，「一人になる，一人で行動すること」といった小グループにより構成されている。「今まで海外に行ったことがないということが一番の不安です（事前）」などの具体的な意見が挙がった。

事前調査で回答が多く寄せられたのが，「**②留学費用に関する不安**」のグループである。「留学費用がどのぐらい必要であるか（事前）」，「一番は留学費用です。お金ないので，この中で一番（事前）」など，学生にとっては留学の費用についての不安が強いことがわかる。渡航先の国によって必要となる生活費にも当然バラツキがあり，保護者とも事前に相談をする必要がある。そのため，留学費用について気にかけている学生が多いことが明らかになった。

留学の不安の要因として最も多くの意見を集めたが，「**③自らの語学力・コミュニケーション力で人間関係を築けるかという不安**」であった。具体的な意見としては，「英語でコミュニケーションをとって生活することが出来るのか（事前）」，「今の自分の英語が海外の人々に伝わるか，理解してもらえるか不安に感じます（事前）」などの意見が挙げられる。この傾向は，事後調査においても同様で，「現地の人と会話しているときに，自分の思いや考えを相手に伝えれるかどうか，伝わるかどうか（事後）」など，質的にも不安の変化は見られない。この，自らの語学力やコミュニケーション力への不安は，「友達ができるか（事後）」，「現地に行って，人間関係がうまくいくか不安です（事後）」といった不安とも関連性があると推測する。留学中，学生達は自らの語学力を用いて現地で新たな人間関係を獲得していく状況下に置かれる。コミュニケーション力についての不安は，本人の語学力とも一定の相関があることも併せて考察する。

「**④日本及び現地での学習・履修の不安**」のグループは，いわば教学面に関する不安である。事前調査においては，「帰国後の大学での単位取得や教職免許の取得」について不安の意見が多く挙がった。具体的な意見を挙げると，「必履修の教科が留学中受けられないので，帰ってきてからの履修が不安です（事前）」のように，長期で留学を望む学生には，帰国後の大学での単位取得の不安がいずれも大きいことがわかる。特に，在学中に教員免許の取得を望んでいる学生にとっては，「教職は続けられるか（事後）」のよう，留学と教員免許取得，どちらを優先的に考えるのか，早い段階から判断を迫られており，それが留学の不安に繋がっていることが示された。事前調査（４月）の段階では留学先が確定していない学生もおり，どの程度留学期間中に現地で単位を取得できるのかを懸念している。入学後の早い段階で，留学期間と単位取得の見込みを示す手引き等が提示できれば，こういった不安はある程度軽減可能と考える。さらに，事後調査においては，「現地での授業・学習・単位取得」について不安だという意見が多く寄せられた。「現地で受ける授業の内容が専門的に習ったことのある科目ではないので，ついていけるか心配（事後）」，「私にとって一番は大学の講義の難度が心配です（事後）」など，日本の大学で語学（英語）を中心に学んでいる大学生にとっては，留学先で受講予定の講義が専門的なものであればあるほど，語学以外の不安も生じる。これについては，留学先が決定した学生から，事前学習の中で予習の手立てを示す必要がある。シラバスなどを留学先の大学から入手できる場合は，予め必要な語彙を英語で習得しておくことが留学前の指導の中で求められるであろう。

中グループ，「**⑤現地の生活・文化に適応できるかの不安**」には，「現地社会・文化になじめるか」，「生活面への適応」の小グループがまとめられた。「行って最初は多分とまどうことがあるだろうけど，混乱

せずに冷静な判断ができるかどうか（事前）」などの学生本人の意見は，異文化への理解度とも関連する。現地文化の理解の仕方やコツについては，授業内で教員や留学経験者がいかに文化や風習，民族性を理解するかといった経験談を話し，異文化理解のワークショップも実施したことで，一定程度の不安軽減に対して効果はあったと考える。

「**⑥治安や現地の情勢**」のグループには，事前調査において多くの意見が寄せられた。しかし，授業内でリスクマネージメントについて外部講師による講義を行い，質疑応答についても複数回設けたため，事後調査においては「治安への不安」に関する意見は急激に減った。同様に，「**⑦自分で食事と健康を管理できるかの不安**」のグループについても，授業内で体調管理の方法や食事についての指導を行った。例えば持病がある学生には，具体的に英語で自らの症状をきちんと説明できるように準備する指導を行うなどした。しかし，事後調査においても食事や健康管理への不安が依然として挙げられていたことから，渡航先に合わせて学生自らが現地の食生活や気を付ける疾患などについて調べる学習を促すことも今後必要といえる。

「**⑧渡航手続きと現地での生活準備に関する不安**」には，「現地の生活環境と準備品」，「貴重品の管理」，「留学の手続き・準備に関する情報」の小グループが該当している。学生が記述した具体的な意見をみるとわかるよう，不安の詳細はすべて留学が迫ってきた際に生じる「新たな不安」である。例えば，「インターネットが使用できるか（事後）」や，「留学先での貴重品管理（事後）」などである。これらすべての意見は事後調査で記述された不安であったことから，現地に赴き，自ら生活を送るための手立てを計画する際に生じる，「手段的な不安」へと，不安の質そのものも移行しているといえる。

最後の中グループ，「**⑨留学先選択と留学後の将来に関する不安**」は，「留学と将来の進路」，「希望する留学先に行けるかどうか」の小グループにより構成される。いわば，今後の将来を見据え，留学先の選択に迷っている学生像がこの意見群に該当する。学生たちは，何のために留学するのか，その目的も含めて考えねばならない。いわば，「意思決定への迷い」に伴う不安といえよう。

量的には事前と事後調査において，「不安」の変化は認められなかったが，以上の結果より，質的には多少なりとも変化があることが明らかになった。特に，学生達の「留学への不安」は徐々に，「曖昧な不安」，「漠然とした不安」から，「留学先での自らの生活環境をどう整えるか」，「現地での学習をどう充実させるか」といった「現実的な不安」へと移行が見られた。留学生活とはある意味，新たな場所において，どう本人が目の前に発生する「不安」や「ストレス」に対してコーピングしていくかの過程でもある。そういった意味で，事前学習を実施した半年の間にも，学生たちは留学という目の前に迫った大きなイベントに対して，徐々に主体的にコーピングを行っていたとも受け取れる。

(2)　留学に対する期待要因の質的探索

次に，大学生が留学に何を望むか，その「期待」について自由記述により問うた。KJ法を用い，調査結果のグループ化作業を行ったところ，図７のような結果にまとめられた。

最も多く学生の意見を集めた中グループは，「**①友人や新しい人とのつながりをつくることへの期待**」であった。具体的な意見をみると，「海外の友達をたくさん作ること（事前）」，「現地の友達と仲良くなり，こっちに帰ってきてもネットワークでつながっておける（事後）」などの意見が挙がる。事前，事後２回の調査を通じて，このグループには多くの意見が分類されている。学生達が，海外留学の最大の効果，その楽しみにとして，最も大きな価値を見出しているのが「友人づくり」，「つながりづく

①友人や新しい人とのつながりをつくることへの期待

友人をつくること	新しい海外の友達が出来るか
海外の友達をたくさん作ること	友人を作ること
新しい人間関係ができる	現地の人との交流
新しい友人ができる	新しい人間関係を築くこと
いろんな国の人と友達になってその国のことを知りたい	異国の地で友人を作りたいと思っています
いろんな国籍、人種の人と話したり、仲良くしたい	自分が人の人生にどれだけ深く入ることができるか楽しみだ
現地の人と仲良くなったりできたり、その国のいい所など少し観光的な楽しみもあります	友達を作ること
現地の人との交流を通して友人を作ること	Crazy な友達を作る
新しい友人ができるかどうかが楽しみ	色々な国の友達が出来る
現地の友達と仲良くなり、こっちに帰ってきてもネットワークでつながっておける	現地の友達をつくり、一緒に出かけること
新しい友人ができること	人とのつながりが増える

②語学力向上　語学習得への期待

語学力がより向上したり、コミュニケーション能力が上がったりすることに期待はしています	語学力が上がること
英語をもっと上達させること	語学力の向上
語学力が向上していくことに期待しています。特にスピーキングのスキルがどう上がっていくか楽しみです	語学が上がることに期待している
留学すると留学先の人たちとコミュニケーションをとらないといけないのでスピーキングの能力が上がると思います	外国人しかいない中で暮らすと英語が伸びるだろう
英語以外の言語を学ぶチャンスがある	英語力向上
語学力の向上	語学力の向上
英語能力が向上するであろうことが楽しみです。特に今よりスムーズに会話ができるように期待しています	語学力の向上
語学力向上と様々な国の人と出会うこと	

異文化理解、新しい文化に触れる

異文化理解	文化に触れること
その国に対しての見方の変化	その国の文化を学べること
現地の生活・文化を体験できる	違う文化（食べ物など）に触れてみたい
カルチャーショックを受けられるか	
現地の文化にふれること	異文化に触れる
現地の生活を知る	異文化に触れることが出来る
知らない文化を体験できる	異文化体験
食べ物	知らなかった文化を知ること

③異文化理解、日本と他国の文化の違いを知ることへの期待

日本との違い、海外からみた日本を知る

海外の人から見た日本というのを知りたい	外国に行って、改めて日本の良さを感じたい
日本にずっといると差別などあまり受けないので少しはそういった経験もできるのかと期待しています。自分がどう感じるのか経験の一つとして知っておきたいです	まず日本ではない所で生活をするということで、旅行では味わえないことが体験できる
文化の違いを見つけること	日本と海外の文化の違いについて触れあえることも期待しています
日本ではないところに行き、生活すること	日本との違いを知れる

⑤海外で新しいチャレンジが出来ることへの期待

すべてにおいて楽しみです、違う環境下に置かれるのは緊張しますがワクワクもします	すべてが新しいからチャレンジもできる
初めての海外長期ステイ	新しい場所へ行く期待感

視野が広がる

自分の視野を広げることができるんではないか	視野が広がるか
新しい環境で世界を広げること	視野が広がり、日本に帰国した際、考え方、受け止め方がだいぶ変わっているであろう
外国に行くことで、視野が広がればと思っています	まだ海外へ行ったことがなかったので、視野が広がるかも
視野が広がる	留学を通して視野が広がり、いろいろと新たに知ることができること

自己成長、自分自身の心境の変化

他の国での長期滞在で自分の心境が変化するかもしれないこと	自分自身を振り返ってなおしたいという思いが何度か自分の中で思ったことがある
	違った自分を発見できる
それが終わったときにはどのような成長ができるのか楽しみにしている	大学に入ってまだ海外に行けていないので、最後に行った海外から年も経っているので感じ方が変わっているのかなと、そういった意味で楽しみにしています
新しい何かが見えるのではないかと期待しています	

観光、レジャー

現地で観光する機会があれば観光することが楽しみである	留学先は仏教の遺跡があるらしいので、それも是非見たい
留学について楽しみにしていることは、やはり遺跡見物です、様々な歴史を見たいです	海であそぶ

④現地で観光・行事に参加することへの期待

現地の大学の行事に参加する

現地の大学のサークルに属して、自らの趣味を共有しうること	学校行事に参加すること

⑥自己の精神的成長および将来の選択肢を広げることへの期待

自立すること

自立	自立すること

将来への新たな選択肢、人生経験として

様々な選択肢を見つけることができるのではないか	仮に就職などで役に立たなくても、自分にとっては大きな意味を持つことになると思う
自分の考え方、今後に良い刺激になる	知らない国での生活になるので、そのことは非常に人生に大きな経験になると思います

行動力、問題解決能力などの向上

行動力の向上	
問題解決能力の向上	学習意欲が増す

事前調査	事後調査

図７　留学に対する期待の意見まとめ

り」であることをこの調査結果が示している。

同様に，２回の調査において，「**②語学力向上　語学習得への期待**」にも意見が多く寄せられた。「英語をもっと上達させること（事前）」，「英語能力が向上するであろうことが楽しみです。特に今よりスムーズに会話ができるように期待しています（事後）」のように，英語を主に大学で学ぶ学生達にとって，習得してきた英語力を実際に海外に出て試すチャンスは，大きな喜びであり，高い期待を寄せていることがわかる。

次に，「**③異文化理解，日本と他国の文化の違いを知ることへの期待**」である。「異文化理解，新し

い文化に触れる」,「日本との違い，海外からみた日本を知る」の小グループから構成されており，このグループには,「留学に行くのは今回が初めてなので，異国の風土を自分で直接感じれる事がうれしい(事前)」,「海外の人から見た日本というのを知りたい（事前)」,「日本との違いを知れる（事後)」，のよう，異文化で暮らす経験を通じて日本の良さを知ろう，日本という国への理解を深めようという意志を感じさせるものである。次の,「**④現地で観光・行事に参加することへの期待**」のグループも，現地での観光や行事参加を通じて，異文化を積極的に理解し受け止めようとする態度とつながっている。

残りの２つの中グループは，学生の留学への積極性・能動性に関連するグループである。「**⑤海外で新しいチャレンジが出来ることへの期待**」には,「すべてにおいて楽しみです，違う環境下に置かれるのは緊張しますがワクワクもします（事後)」,「すべてが新しいからチャレンジもできる (事後)」といった意見がまとめられている。同様に,「**⑥自己の精神的成長および将来の選択肢を広げることへの期待**」には，精神的な成長への期待を望む意見が複数寄せられた。小グループ,「視野が広がる」,「自己成長，自分自身の心境の変化」の中には,「自分の足りないものが知れる (事後)」などの意見が挙がった。「行動力，問題解決能力などの向上」のグループには,「自分から行動しないといけないのでより積極的になれるということが楽しみなのと期待しています（事後)」などの意見が並ぶ。また,「将来への新たな選択肢, 人生経験として」のグループには,「知らない国での生活になるので，そのことは非常に人生に大きな経験になると思います（事前)」，さらには,「自立すること」という小グループも出現している。特に事後調査おいて，自己成長を願う意見が多く記述されており，学生らは留学を「語学の習得の機会」のみならず,「自らの成長機会」として幅広く捉えていることが実証的に明らかになった。授業中にも，教職員が現地で苦労しながら生活を送ったこと，現地での就労経験で得た語学力や経験値について話す機会を頻繁に設けた。これにより，多少なりとも，学生達には留学によって得るもの，その多様性を考えるきっかけになったのではないかと推測する。

８．結論

本調査の結果から明らかになった，大学生の「海外渡航経験の実態」を踏まえ，学生たちの「留学への不安」および「留学への期待」が留学事前学習を経て，どう変化したか考察を行った。以上の成果をもとに，今後，留学の事前学習としてどのような実践を行うことが望ましいかを３点挙げ，結論として位置づけたい。

第１に, 海外留学に望む大学生の層は多様であり，初めて海外渡航する学生から，頻繁に海外への渡航経験がある学生と，海外渡航や海外生活への学生自身の親和性には大きなバラつきがあった。渡航経験が全くない，または経験が少ない学生が持つであろう「不安」は，当初は「漠然とした不安」であるであろうし,「修学旅行」で得た渡航経験のみでは留学そのもののイメージは依然としてつかみにくい。留学の事前学習はいずれにせよ「教育上のニーズが高い」ことは明らかである。授業での取り組みがどの程度直接的に効果を与えたかは今回の研究枠組みでは測定困難ではあるが,「実習計画のプレゼンテーション」で他の受講生の留学の目標をお互いに聞く，理解することで,「私も○○をやってみたい」といった声を聞くことが多々あった。教員と学生といった縦の指導関係のみならず，留学を目指す学生達や留学から戻ってきた上級生を交えた「ピアグループ」を作り，学生間のグループ・ダイナミクスを活用しながら留学の事前学習を促すことも，今後効果が期待される学習の形ではないかと思われる。

第２に，留学に対する不安についてである。全体としては，学生たちの不安は海外へ行くことに対する「漠然とした不安」から「現実的, 手段的な不安」へと変化が見られた。この留学までにたどる学生の不安のプロセスは，逆に言えば,「その不安を解消するために何をすべきか」という，大学が学生に示すことが可能な「指標」を表しているといえよう。事前学習の授業内でも，特に不安との意見が多かった現地での修学のギャップについて挙げれば，留学先の大学の情報を学生が早期から自主的に探索し，事前準備を促す必要性を示している。また，日本で学ぶ語学の授業（英語）の中に，現地の授業で用いるであろう「概念」や「語彙」を多く盛り込むなど，語学科目と留学指導とを直接的にリンクさせることも今後望まれる。

第３に，学生達の留学に対する期待の大きさについて着目したい。期待の内容も，語学力の向上といった点のみならず,「自らの人間的な成長」,「視野を広げること」,「自立する」,「将来への選択肢を増やす」といった「自己成長」の位置づけとして「留学」に期待している点が非常に大きいことが明らかになった。アクティブ・ラーニング方式の授業を取り入れることで「自らの頭で考え行動する」，いわば能動的な留学への姿勢を準備段階から育成できると考える。また, 留学の事前学習を行う中でも,「学生本人が何を留学に求めるのか」を教員自らが学生に問うていく，ある時は留学に関する学生の迷いや葛藤に寄り添う姿勢も彼等の自己成長を見届ける立場として重要と考える。

９．残された課題

残された課題として次の３点が挙げられる。

第１の課題は，調査の頻度である。１時点目として留学の事前学習開始時，２時点目として，事前学習終了時，さらに今後，留学の結果,「アウトカム」としての３時点目の調査実施が強く望まれる。これについては，現在（2016年１月），学科第１期生が留学中であるため，全員が帰国した後に改めて調査を行う必要がある。

第２の課題は，量的研究の蓄積が必要であるという点である。これについても今後，調査対象者のサンプルを増やすとともに，尺度の見直しについても必要である。さらに，可能であれば個人を特定しながら定点観測が可能な，いわゆる「パネルデータ」を積み上げることで初めて学生本人の英語力との比較検証が可能となる。パネルデータを作成するには個人を特定せねばならないため調査倫理上のハードルは高くはなるが，この分析が可能となれば，学生自身の語学力の延伸と，留学によって得られた本人の意識・行動の変容を，相関及び因果関係の視点からも検証することが可能となる。

第３の課題としては，さらに質的な調査を進め，海外留学に臨む大学生の「不安や期待」を丁寧に抽出する必要があるという点である。今回の調査のような質問紙調査では記入内容に限界もあるため，今後，フォーカスグループインタビュー等で得られた言語データをもとに会話分析等を行うことも有意義な研究手段であるといえよう。残された課題について，今後も一つずつ段階的に取り組みたい。

文献

北海道大学工学部工学教育プログラム・グローバル化推進委員会（2009）「日本人学生の留学に関する意識調査」www.eng.hokudai.ac.jp/jeep/19-20/iinkai.files/3kekka.pdf （アクセス日：2014年４月９日）

文部科学省（2015ａ）「１．小学校における英語教育の現状と課題」http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/06040519/002/002.htm （アクセス日：2015年12月27日）

文部科学省（2015ｂ）「５．日本人の海外留学」http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/attach/1249709.htm （アクセス日：2015年12月27日）

文部科学省（2015ｃ）「トビタテ！留学JAPAN」http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/tobitate/index.htm （アクセス日：2015年12月27日）

森宏一郎・児玉奈々（2012）「滋賀大生の留学志向に関するアンケート調査分析」http://libdspace.biwako.shiga-u.ac.jp/dspace/handle/10441/10601 （アクセス日：2014年４月９日）

小栗俊之・本間篤（2003）「海外留学中の健康管理に関する事前教育の必要性―ストレスに起因する心身症及び感染症と危機管理」『文京学院大学研究紀要』５（１），pp.43-61.

太田浩（2014）「日本人学生の内向き志向に関する一考察―既存のデータによる国際志向性再考―」，独立行政法人日本学生支援機構『留学交流』，2014年７月号，pp.1-19. www.jasso.go.jp/about/documents/201407otahiroshi.pdf （アクセス日：2015年12月25日）

杉野竜美・武寛子・正楽藍（2014），「大学生のキャリア展望をもとにした海外留学支援制度の在り方：日本の四年制大学におけるインタビュー調査より」『国際協力論集』，21（2/3）：pp.121-140.